

広濟寺寺報

発行 浄土真宗本願寺派 福田山 廣濟寺

〒933-0344 富山県高岡市笹川98

TEL(FAX) 0766-31-0096

E-Mail kosaiji@hotmail.co.jp

ブログ版 <http://kosaiji.blog31.fc2.com/>

永代祠堂經法要が勤まります
六月三・四日 午前・午後

薫風さわやかな季節となりましたが、当寺においても例年の如く、永代経が勤まります。日時は六月三日(木)・四日(金)、両日ともに午前九時半・午後二時よりとなっております。計四座勤められるこの法要では、報恩講でおなじみのお斎も婦人会の方々が用意していただきます。是非ゆつくりとお聴聞なさってください。

御講師には、高岡市内島、教



願寺住職の岡西法英先生をお迎えます。毎回いろんな話を通して、わかりやすく阿弥陀様のことをお聞かせ下します。

さて、永代経についてですが、永代経とは亡き方々をはじめめとした様々なご縁様のみ教え(お経)に出遇わせていただいていることに感謝し、そしてそれを永代

にわたって伝えていこうという願いのもとに勤まる法要です。今私がこうして仏様のみ教えに出遇わせていただいているのも先人の様々なおはたらきがあるからでしょう。そのことに感謝し、今、そうして私に届いている仏様のみ教えをしっかりと聞いていきたいものです。そしてその教えを後の世の人々にも途絶えることなく伝えていくのが永代経です。それは今の私に亡き方々が願われていることでもあります。何よりもまず今この私が仏様の教えを聞かせていただくというのが永代経なのです。仏教行事は数多くありますが、それだけ先人の方々は様々なご縁をもってこの私に仏教に出遇ってくれよとはたらいてくださっておられるのでしょうか。

五位組

親鸞聖人 750回大遠忌 お待ち受け法要

音楽法要の様子



満堂の中、盛大に勤まりました

去る四月十一日、長光寺において五位組親鸞聖人七百五十回大遠忌お待ち受け法要が勤まりました。七百人以上の参拝者が集い、盛大にお

迎えることができました。法要は、この度新たに制定されました宗祖讃仰作法・音楽法要をお勤めいたしました。コーラスの合唱団も参加していただいたこの法要は、今までとは異なった新しい法要の形として、満堂の中、大変厳かに勤められました。

記念法話には、

広島県より福岡義朝先生をお迎えしお聴聞させていただきました。時間を忘れてしまふほどに楽しく、そして有り難いお話に、初めてお聴聞された方々にも次回ま

たお寺に来てみたいという声を多くいただきました。そしてチャリ

ティーバザー&オークションにおいても、多くの方々のご協力によって、地元福祉作業所等へたくさんの方々の支援をさせていただくことができました。

この度の法要はご門徒の方々を始めとした多くの方々のご協力によってこのように盛大に勤めることができました。また準備・後片付け等の裏方にまわってくださいました。本堂にありがとうございました。皆さん一人ひとりの心の内に、親鸞聖人のみ教えが届くご縁となったことだと思います。

そして来年はいよいよ京都西本願寺にて七百五十回大



第二会場の広間では、大画面モニターで法要の様子を中継しました

遠忌が勤まります。五位組からも団体参拝をさせていただきます。日時は来年四月十日(日)から一泊二日。是非皆さんで参拝させていただきます。また予定が合わないという方も、五十年に一度の大法要です。大法要は来年四月から再来年の一月にかけて五十六日間、計一〇座が勤まりますので、是非京都西本願寺の大法要のご縁に遇つただけければと思います。

坊守のつれづれ日記

坊守、インドに行く

海外旅行に少なからず抵抗を持つていたが、「今がチャンス」と背中を押され初の出国となる。行き先は「釈尊三大聖地巡拝」と称し、印度へ。今まで見聞きしていた仏教発祥の地に一抹の不安を持っての旅となる。百聞は一見に如



インドに広がる原風景

かず通り、入国早々、風土の違いに驚き、途端にカルチャーショックに陥る。どうなるのか心配になったが、天性の楽観的性格の為、和食にありつけたことで事無きを得た。

お釈迦様が悟りを開かれた跡、沢山のお経を説かれた跡、初転法輪の跡地等、行く先々で感動、感激する。反面、変わり果てた遺跡よりも、車窓から見る田畑や草原風景の方が、お釈迦様在世当時の姿を残しているように見え、

今、私が同じ地に立っていることに思わず身が引き締まった。そう思うとお釈迦様は、仏跡だけに知られたのではなく、今、私が歩いている道すらも同じように歩いておられたと思ふと、単に仏跡を巡ったことだけでなく、



ガンジス河にて沐浴する人々

仏様に遇えたように感じた。印度は、文化、気候、価値観、生活様式等、全てが私たちの生活と異なることも確実に実感し、私が今、当たり前のように生活していることを深く顧みる機会となった。

多くの仏教徒が思いを馳せた釈尊三大聖地を巡拝し、

二千年以上も遠き昔、仏教を伝えて下さった先人の方々、三蔵法師より中国へ、そして日本へ伝わり、今、日本に生きる私に教えが届いていることに深く感慨を覚えた。またもしもう一度印度へ誘われたら即座にOKとは言えない私だが、阿弥陀様のお導きによりご縁を頂いた今回の旅を素直に喜び感謝したい。



霊鷲山にて記念撮影

お知らせ

二〇一〇年

広濟寺仏教婦人会

五月二十一日(土)

午後七時半より

永代祠堂経法要

六月三日(木)・四日(金)

午前九時半より

午後二時より

御講師

五位組 教願寺

岡西 法英 師

平等仏教婦人会

結成五十周年記念式典

併 物故会員総追悼法要

六月二十七日(日)

午前十一時より

御講師 宮木美弥子 師

※ 昼食のお齋代 千円

仏教豆知識

今回は前頁に出てきた「仏教〇大聖地」ということについて少し紹介させていただきます。

よく言われるのが、「仏教四大聖地」です。これは仏教において最も重要な四つの聖地のことで、

①ルンビニー（釈尊が生まれた所）

②ブツダ・ガヤー（釈尊が悟りを開かれた所）

③サールナート（釈尊が初めて法を説いた所）

④クシーナガル（釈尊が亡くなられた所）

の四つを指します。

今回坊守が訪



れたところは、ルンビニーを除いた三大聖地でした。ルンビニーはインドではなくネパールにあるので他の仏跡に比べ少し離れているのです。

この四大聖地にさらに四カ所を増やして「八大聖地」ということもあります。この中には皆さんご存知の祇園精舎も含まれます。「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」で始まる『平家物語』によつて有名ですが、実はこの祇園精舎には鐘が無かったそうです……。しかしそれではいかんと日本人が一九八一年

に建てた鐘楼が今も存在しております。そうして今日もまた日本人の夢見る祇園精舎の鐘が遠くインドから響いていることでしょう。

編集後記

今号は「仏事の疑問Q&A」はお休みさせていただきました。法名についての記事になることを一部のご門徒さんにはお伝えしていたのですが急遽変更となり申し訳ありませんでした。次号に転載となりますのでもうしばらくお待ち下さい。

さて、そして緊急掲載となったのが前頁の「坊守のつれづれ日記」です。今年二月に行ってきたばかりのインドについて、つれづれにまかせて書いてみようです。如何でしたでしょうか？インドの魅力、そして仏教の魅力が少しでも伝われば幸いです。またそのうち、そこはかとなく書き付くれば、掲載致しますので楽しみにお待ち下さい。